

目次	刊行にあたって	
	土木学会歴代会長紹介	1
	土木学会第1回総会会長講演(抜粋)	15
第1編	総論—土木学会が果たしてきた役割—	16
	まえがき	16
	第1章 学会設立の意義	16
	第2章 大正時代〔1914(創立年)~26〕	17
	第3章 昭和時代前期(1927~45)	17
	3.1 支部設立	17
	3.2 示方書作成	18
	3.3 用語調査	18
	3.4 国際対応の先駆	19
	3.5 土木史編さん	19
	3.6 土木技術者の倫理規定	19
	3.7 災害調査報告	20
	3.8 幻の東京オリンピックから戦時体制へ	21
	第4章 第二次世界大戦後(1945~94)	21
	4.1 学会の顔としての学会誌	21
	4.2 旺盛な出版活動	22
	4.3 新しい学問の育成	23
	4.4 国際化への積極姿勢	24
	4.5 開かれた土木学会	24
	おわりに 80周年記念—21世紀へ向けて—	25
第2編	本会創立の背景	27
	まえがき	27
	第1章 工部省と工部大学校	27
	第2章 主要学協会の創立	28
	第3章 工学会の創立と工学系学協会の独立	28
	第4章 本会の創立	29
	第5章 明治期の土木教育—会員の有資格者を探って—	30
	5.1 教育制度の一元化	30
	5.2 高等土木教育機関と卒業生	30
	5.3 中堅土木技術者の育成	32
	おわりに	32
	●第2編コラム● 1 山尾庸三・2 Henry Dyer(27) 3 名簿に見る理 学士と工学士・4 工学得業士(29) 5 我が国初の博士と初期の海外留 学生・6 主要なお雇い外国人教師と技師(31) 7 ICE(1818), ASCE (1852)などの先輩学会・8 明治17年に消えた早大土木の夢(33)	
第3編	創立から第二次大戦終了までの活動—1914~1945—	34
	まえがき	34
	第1章 創立の経過と組織の流れ	34

1.1	諸準備から創立まで	34
1.2	創立後の動向	38
1.2.1	総会および会長講演	38
1.2.2	12回にわたる定款・規則の改正	39
1.2.3	事務所の変せん—幻の土木会館—	39
1.2.4	役員および職員—夜間より昼間事務制へ—	41
(1)	名誉職の役員および職員	41
(2)	永年勤続の事務嘱託	42
(3)	事務局自立の遅れ	42
1.2.5	会員の種別と伸びる会員数	43
1.2.6	会計の推移—基金の充実—	45
第2章	戦前の事業	45
2.1	各種事業の概要	45
2.1.1	各種調査委員会と諸事業	45
	付・土木技術者の信条・土木技術者の実践要綱	50
2.1.2	広井勇博士と土木賞の創設	51
2.1.3	各種の行事と大会	52
(1)	講演会および映画会等の開催	52
(2)	見学視察旅行	52
(3)	周年記念大会	53
(4)	工学会大会土木部会	53
(5)	年次学術講演会	54
(6)	応用力学聯合大会	54
2.1.4	工学会に協力した主な事業	55
(1)	「明治工業史」と「日本工業大観」の編集	55
(2)	万国工業会議 (WEC)	55
(3)	工学会大会	56
(4)	その他の事業	56
2.1.5	建議・顕彰事業への協力・海外交流	56
(1)	様々な建議	56
(2)	募金・顕彰事業への協力	56
(3)	海外との交流	57
第3章	各支部の設置状況	57
	おわりに—戦争とのかかわり—	58
●第3編コラム●	1 土木学会創立に参画した人びと・2 高かった土木学会の会費 (35) 3 明治大正の清きエンジニア (37) 4 古市博士授爵祝賀会と爵位継承者・5 こうもり族・6 事務の昼間部制 (41) 7 役員は東京市付近の在住者に限定・8 土木技術者の専門別と外地への進出・9 技監は局長以下 (43) 10 大正から昭和前期までの高等土木教育修了者・11 学会誌の文字を揮毫した書家二人 (49) 12 「明治以前」と「明治前」日本土木史 (51) 13 創立20周年に制定されたバッジ・14 ゴルフ会のはしり・15 技術者運動とその成果 (53) 16 募金・顕彰事業への協力	

第 4 編	第二次大戦終了から現在までの活動—1945~1994—	60
	まえがき	60
	第1章 再建に向けて	60
	第2章 学会活動の基礎がため	61
	2.1 基金とその活用	61
	2.1.1 基本財産基金—3分の2は戦前の寄付—	61
	2.1.2 吉田・田中博士記念基金	61
	2.1.3 土木振興基金	62
	2.1.4 学術振興基金	62
	2.1.5 公益信託・土木学会学術交流基金	63
	2.2 多様化する土木学会賞	63
	2.2.1 各賞の動向	63
	2.2.2 賞の問題点	66
	2.3 事務所の変せん	66
	2.3.1 旧土木会館の建設	67
	2.3.2 土木図書館の建設	67
	2.3.3 新土木会館の建設	68
	2.3.4 用地と今後の会館問題	68
	第3章 組織の移り変わり	69
	3.1 定款・規則, 各種規程等の改正および一部変更	69
	3.2 伸び続ける会員数	80
	3.3 増大する役員と専務理事制	82
	3.4 総会と会長講演または特別講演	83
	3.5 会計の推移	84
	第4章 事業の概要	90
	4.1 出版事業	90
	4.1.1 ニュースおよび土木学会誌の発行	90
	4.1.2 土木学会論文集の歩み	95
	4.1.3 学会誌, 論文集以外の逐次刊行物	97
	4.1.4 各種の単行本	99
	(1) 単行本の分類	99
	(2) その他の単行本	99
	4.2 各種の行事	103
	4.2.1 講演会	104
	(1) 年次学術講演会と全国大会	104
	(2) その他の講演会	106
	4.2.2 講習会	107
	(1) 夏期講習会	107
	(2) 委員会主催による講習会	107

4.2.3	シンポジウム・研究討論会	107
4.2.4	その他の研究発表会	108
4.2.5	土木学会映画コンクール・映画会	109
4.2.6	見学会、視察および海外研修旅行	109
4.2.7	周年記念事業	110
	(1) 創立40周年記念事業	110
	(2) 創立50周年記念事業	110
	(3) 創立60周年記念事業	110
	(4) 創立70周年記念事業	111
	(5) 創立75周年記念事業	111
	(6) 創立80周年記念事業	111
4.3	広報事業	113
4.3.1	青函ウォーク	113
4.3.2	「土木の日」関連行事	113
4.3.3	全国大会での広報活動	114
	おわりに	114
	●第4編コラム● 1 GHQによる事務所の接収・2 土木振興基金と技術開発のすすめ(61) 3 「土木賞牌」および「映画コンクール賞牌」・4 「吉田賞・田中賞賞牌」と作者 山脇洋二・5 田中賞作品賞のデザイン(64) 6 『湖水誕生』で著作賞を受けて(65) 7 『四千万歩の男』と人生二山(69) 8 土木会館の建設を終えて(71) 9 学会と寄付金—公益信託の設立へ(73) 10 特定公益増進法人の認定と課題(77) 11 土木学会賞は個人で4賞が最多・12 学園紛争と銅像(79) 13 論文集第四号の表紙の疑問・14 活版印刷からCTS(コールドタイプシステム)へ(93) 15 グラフィックス・くらしと土木・16 青函ウォーク参加者の感想(111)	
	委員会細目次	115
第5編	委員会	117
	まえがき	117
	第1章 総務部門	117
	1.1 活動を終え、解散した委員会	117
	1.2 活動中の委員会	118
	第2章 企画部門	124
	2.1 活動を終え、解散した委員会	124
	2.2 活動中の委員会	126
	第3章 編集出版部門	130
	3.1 活動を終え、解散した委員会	130
	3.2 活動中の委員会	136
	第4章 調査研究部門	144
	4.1 活動を終え、解散した委員会	144
	4.2 活動中の委員会	147
	第5章 その他の委員会・懇談会など	208
	5.1 その他の委員会	208

	5.2 懇談会	208
	5.3 1994年度の新設4委員会	208
	5.4 その他の受託研究	209
	5.5 各種委員会, 小委員会等のまとめ	209
	おわりに	210
第 6 編	支部および事務局	211
	まえがき	211
	第1章 各支部および満洲土木学会	211
	1.1 関西支部	211
	1.2 東北支部	216
	1.3 北海道支部	221
	1.4 中部支部	223
	1.5 西部支部	226
	1.6 朝鮮支部	230
	1.7 (社)満洲土木学会	230
	1.8 華北支部	234
	1.9 中国四国支部	235
	1.10 台湾支部	238
	1.11 関東支部	238
	1.12 支部会計	245
	第2章 本部事務局	245
	2.1 事務局機構の動き	245
	2.1.1 永代橋時代	245
	2.1.2 大手町時代	245
	2.1.3 四谷移転前後	246
	2.1.4 「職員就業規則」の制定	246
	2.1.5 50周年から70周年へ	246
	2.2 最近10年間の主要活動	246
	2.3 附属土木図書館の運営	249
	おわりに	249
	●第6編コラム● 満洲土木学会の中心人物4名・1 満洲土木学会初代会長 佐藤應次郎・2 「技術生活」に生きた直木倫太郎博士・3 大村卓一満鉄総裁の悲運・4 久留米市名誉市民 梅野實(243) 5 華北の建設総署・6 華北交通(株)のこと・7 満洲国の行政機構(244) 8 1946年以降の本部事務局職員一覧・9 近代土木文化遺産としての名著100書(250) 10 学会出版物のベストセラー・11 支部職員の処遇・12 国際貢献・技術功労賞の賞牌とレリーフ“宙にかける橋”碑デザイン製作の意図(252)	
第 7 編	本会と関係機関および学協会との交流	253
	まえがき	253
	第1章 国内諸機関との関係	253
	1.1 日本学術会議と会員	253

1.2	日本学士院会員と学士院賞受賞者	253
1.3	文化勲章受章者および文化功労者	255
1.4	日本工学会への協力事業	255
1.4.1	日本工学会 100 周年記念事業	256
1.4.2	最近の主な事業	256
1.5	土木関連分野の学協会の概況	258
1.6	各種の大会などの共催行事	259
(1)	工学会大会土木部会	259
(2)	土・粉体・粒体に関する連合講演会	260
(3)	応用力学連合講演会	260
(4)	日本学術会議材料研究連合講演会	260
(5)	構造工学シンポジウム	260
(6)	風に関するシンポジウム	260
(7)	風工学シンポジウム	261
(8)	日本地震工学シンポジウム	261
(9)	岩の力学国内シンポジウム	262
(10)	安全工学シンポジウム	262
(11)	水資源に関するシンポジウム	263
(12)	その他の共催行事など	263
<b>第2章</b>	<b>海外との交流</b>	<b>264</b>
2.1	創立から第二次大戦終了までの概況	264
2.2	大戦終了から 1950 年代	264
2.3	1950 年代の主な国際会議	265
2.4	交流の本格化	265
2.5	1960 年以降の日本開催の国際行事	266
2.6	国際学協会の概要	269
2.6.1	国際構造工学協会	269
2.6.2	国際水理学会	269
2.6.3	国際海岸工学会議	271
2.6.4	国際地震工学会	271
2.6.5	国際岩の力学学会	273
2.6.6	国際トンネル協会	274
2.6.7	その他の団体	274
(1)	本会と協力協定を締結している学協会	274
(2)	その他の学協会および国際機関	274
2.6.8	本会会員の国際学会会長経験者	276
2.7	各国学会との交流	276
2.7.1	ASCE (米国土木学会)	276
2.7.2	ICE (英国土木学会)	277
2.7.3	KSCE (大韓土木学会)	277
2.8	国際交流上の課題	278

2.9 外国人の名誉会員	278
おわりに	278

●第7編コラム● 1 鈴木雅次博士・2 赤木正雄博士・3 武藤清博士・4 内田祥三博士・5 物部長穂博士と記念館・6 国分正胤博士・7 角屋陸博士・8 岡本舜三博士・9 富樫凱一名誉会員 (257) 10 工学系主要学協会の会員数・11 年間会議数は建築と土木が突出 (261) 12 関連学協会の賞・13 ICE, ASCE の会員内訳・14 プラントン記念事業 (279) 15 JSCE と ASCE の個人会費は遂に同額・16 国際会議への寄付と税金・17 国際会議はバクチ (280)

## 第 8 編 土木学会と私—80 周年に寄せて— 281

1 戦時中の特異な思い出一, 二 (河上房義)・2 「建設ニュース」発行の思い出 (福岡正巳)・3 土木学会の思い出 (本間仁)・4 ガード下で結実したコンクリート標準示方書 (国分正胤)・5 学術用語の制定作業 (久保慶三郎)・6 私だけが知っている二つの話 (成岡昌夫)・7 耐震工学委員会発足のころ (岡本舜三)・8 日本学術会議と土木学会 (伊藤富雄)・9 4 回にわたる土木工学ハンドブックとのおつき合い (宮崎忍)・10 会員のための学会誌 (八十島義之助)・11 土木図書館のはじまり (米元卓介)・12 日本土木史の編集に参画して (高橋裕)・13 土木計画学って何? (米谷栄二)・14 学会誌の委員長として (増岡康治)・15 土木学会と私 (芦原義信)・16 土木史の展開に期待 (村松貞次郎)・17 IAHR (国際水理学会) の会長をつとめて (林泰造)・18 昭和 48 年度全国大会の裏話 (堂垣内尚弘)・19 田中賞とのかかわり (大野美代子)・20 新潟会のこと (大熊孝)・21 女性の職業としての土木 (寺本和子)・22 四谷見附橋の価値の発見 (伊東孝)・23 喜と苦の委員会執行 (千秋信一)・24 論文集改革の思いで (小林一輔)・25 論文集第 VI 部門への歩み (上田勝基)・26 日本工学会 100 周年の思い出 (川越達雄)・27 役員選考をめぐる (伊藤学)・28 土木学会特別表彰と国鉄土木技術者 (岡田宏)・29 土木技術者に贈るエール (田村喜子)・30 琉球大学—その発足と変せん (上間清)・31 土木曼陀羅—関西支部在職 35 年雑感— (坂上隆正)・32 思い出に残る新会館の建設 (長沢不二男)・33 土木広報あれこれ (三浦裕二)・34 学会誌のカラー化を推進して (岡村甫)・35 ASCE 青函セッションに参加して (藤田圭一)・36 関東学院大学土木工学科女子クラスの試み (昌子住江)・37 女性会員と学会活動 (関延子)・38 山の神に見守られ (正木啓子)・39 四国支部の独立 (河野清)・40 80 周年演奏会の音楽監督をつとめて (中瀬明男)・41 NHK スペシャル・テクノロジーを終えて (高木不折)・42 平成 6 年度日本学士院賞を受けて (角屋陸)	
---	--

## 第 9 編 資 料 307

9.1 名誉会員推挙者一覧 (1933~93 年度)	307
9.2 功績賞受賞者略歴	308
9.3 本部役員一覧 (1985~94 年度)	312
9.4 土木学会賞受賞者 (付・吉田研究奨励金被授与者一覧)	316
9.5 映画コンクール入賞作品一覧	339
9.6 土木学会運営に関する規程	341
9.7 支部規程	341
(1) 北海道支部規程	341

(2) 東北支部規程	342
(3) 関東支部規程	343
(4) 中部支部規程	343
(5) 関西支部規程	344
(6) 中国四国支部規程	345
(7) 西部支部規程	346
9.8 委員会規程	346
9.9 表彰規程	347
9.10 土木図書館規程	348
9.11 委託研究取扱規程	349
9.12 会議・委員会等の旅費規程	350
9.13 選定映画制度等に関する規程	351
9.14 出版規程	351
9.15 経理規程	352
9.16 土木振興基金規程	353
9.17 フェロー制度に関する規程	353
9.18 全国大会主要行事一覧	354
9.19 年次学術講演会における総合講演・部門講演・研究討 論会等のテーマ	357
9.20 公益信託「土木学会学術交流基金」助成一覧	360
9.21 「土木学会学術振興基金」当選者	360
9.22 土木学会出版物一覧	361
9.22.1 本部出版物	361
9.22.2 支部出版物	371
9.23 その他の参考資料	376
9.23.1 大臣経験者	376
9.23.2 国会議員経験者	377
9.23.3 省庁、公社公団等の長官・総裁・理事長 等経験者	377
9.23.4 知事・政令指定都市市長経験者	377
9.23.5 日本商工会議所（日商）会頭経験者	377
9.23.6 日本工学会会長経験者	377
9.23.7 各省庁技術系事務次官経験者	377
9.23.8 国立大学学長経験者	377
9.23.9 私立大学学長経験者	378
9.23.10 旧高工・工専校長経験者	378
9.23.11 高専校長経験者	378
9.23.12 旧帝大の学部長経験者	378
9.24 土木学会 80 年年表	379
付・関東支部（1963～93）年表	497
編集を終えて	501